品川駅南地域　まちづくりビジョン

平成 26 年　6月　品川区

＜まちづくりビジョンの構成＞

1.　はじめに
　1－1.　地域を取り巻く社会状況の変化　…1
　1－2.　まちづくりビジョンの目的・位置づけ　…1
　1－3.　まちづくりビジョンを活用したまちづくりの展開　…1

2.　品川駅南地域の現況と課題
　2－1.　地域の位置づけ　…2
　2－2.　地域のポテンシャル　…3
　2－3.　地域の課題　…3

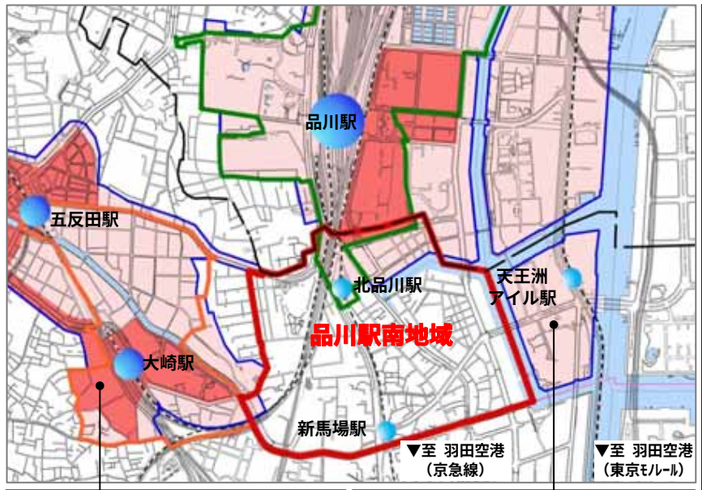
3.　目標とする市街地将来像
　3－1.　地域の将来像　…4
　3－2.　目標とする５つの街　…4
　3－3.　将来像の実現に向けた基本戦略　…5
　3－4.　市街地将来像　…6
　　■ 拠点の考え方
　　■ 軸の考え方
　　■ 土地利用・ゾーニングの考え方
　　■ 重点検討区域における市街地将来像

1. はじめに

1−1. 地域を取り巻く社会状況の変化

- 品川駅南地域は、品川新拠点の一部分を担い、東京のサウスゲートとしてターミナル機能強化が期待される品川駅に隣接する位置にあります。
- 品川駅周辺については、平成 18 年 9 月「品川周辺地域 都市・居住環境基本整備計画」の策定を契機に大規模なまちづくりが計画されており、近年では、羽田空港の国際化・24 時間化や、リニア中央新幹線の始発駅整備の計画などを受け、「特定都市再生緊急整備地域」や、「国際戦略総合特区」に指定され、品川新拠点の区域が見直されるなど、地域の位置づけがさらに高まりつつあります。
- これらの状況を鑑み、平成 24 年度策定された「品川区まちづくりマスタープラン」では、当地域を含む品川・天王洲アイル駅周辺を「広域活性化拠点」として位置づけ、品川区全体を牽引する高質な業務・商業・居住機能の集積を図ることが示されています。
- また、地元においても、地元地権者、町会長、商店会長、ＮＰＯ等によって平成 22 年 10 月に「品川駅南地域の未来を創る推進協議会」が設立され、地域の目指すべきまちづくりの方向性についてまとめた「品川駅南地域まちづくり構想」の作成や、まちの将来像の実現化に向けた活動が進められるなど、まちづくりの機運が高まりつつあります。

○ 品川駅南地域の位置づけ



大崎駅周辺地域（都市再生緊急整備地域）
都市再生ビジョンに基づき、東京のものづくり産業を先導する拠点づくりが進められている。

天王洲地区（東品川二丁目地区地区計画）
地区計画に基づき、国際化・情報化に対応した業務地域の形成が進められており、外資系企業が立地している。

凡例
- 品川駅南地域（約 92ha）
- センターコア・エリア
- 新拠点（品川）、副都心（大崎）の範囲
- 業務・商業ゾーン
- 複合市街地ゾーン
- 特定都市再生緊急整備地域・国際戦略総合特別区域
- 都市再生緊急整備地域
- 主要な駅　-------- 鉄道　— —— 区界

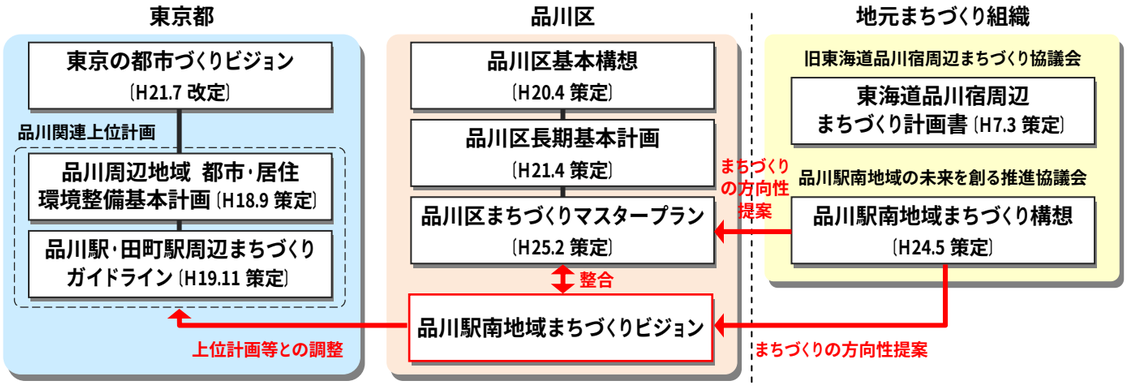
時期	品川駅周辺のまちづくりの動向
平成13年10月	品川が新拠点として指定【東京都】
平成15年10月	東海道新幹線品川駅の開業
平成17年6月	運河ルネッサンス推進地区「品川浦・天王洲地区」を指定【東京都】
平成18年9月	品川周辺地域 都市・居住環境整備基本計画の策定【東京都】
平成19年11月	品川駅・田町駅周辺まちづくりガイドラインの策定【東京都】
平成22年10月	羽田空港新国際線ターミナル開業
平成23年1月	品川区景観計画の策定【品川区】
平成23年12月	国際戦略総合特区の指定
平成24年1月	特定都市再生緊急整備地域の指定
平成25年2月	品川区まちづくりマスタープランの策定【品川区】
平成25年4月	品川新拠点の見直し【東京都】
平成39年（予定）	リニア中央新幹線東京―名古屋間の開通
平成57年（予定）	リニア中央新幹線東京―大阪間の開通

※　リニア中央新幹線の開通時期については、東海旅客鉄道株式会社プレリリース（H22 年 4 月）を参照

1−2. まちづくりビジョンの目的と位置づけ

- 本ビジョンは、地域の将来像や、その実現に向けた整備の方向性について、地権者や事業者、及び行政等、まちづくりに関わる多様な関係者の共通指針として、地域全体の一体的なまちづくりを推進し、更なる地域価値の向上を目的とするものです。
- 本ビジョンは、現時点でまとめたものであり、今後、継続的に検討を進め、地域のまちづくりの状況・進捗等を踏まえながら、適切に運用していきます。

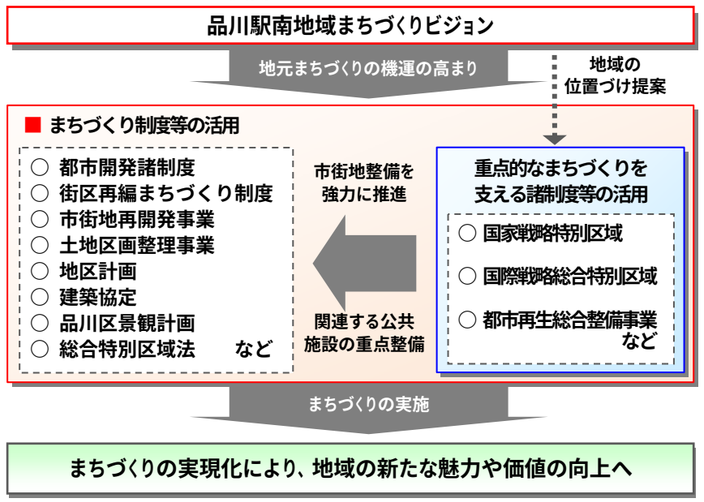
○ まちづくりビジョンの位置づけ



1−3. まちづくりビジョンを活用した今後のまちづくりの展開

- 当地域は、旧東海道を始め、御殿山や目黒川・天王洲運河といった様々な資産が集積しています。そのため、本ビジョンを共通指針とし、地元まちづくりの機運の高まりに併せて、まちづくり制度等の活用を図り、地域性に配慮したきめ細かい規制・誘導によるまちづくりを進めていきます。
- 地域全体のまちづくりを牽引するため、品川駅に近接するエリアを重点的な検討を進めていく区域（以下、重点検討区域）と定め、品川駅周辺のまちづくりとの連携を図りながら、まちづくりを進めていきます。

○ 今後のまちづくりの展開イメージ

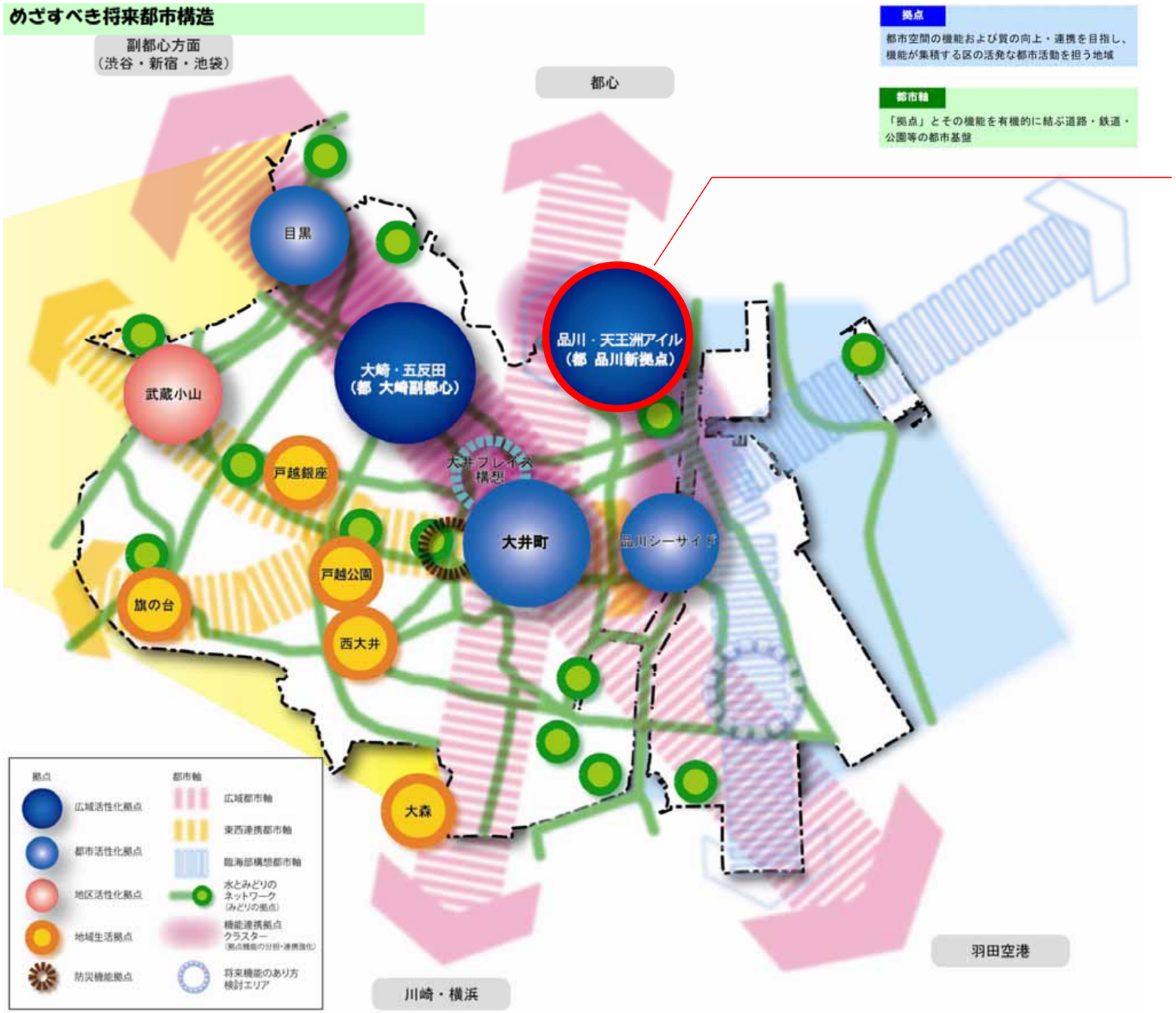


○ 重点検討区域の位置

2. 品川駅南地域の現況と課題

2－1. 地域の位置づけ

【品川区まちづくりマスタープランにおける位置づけ】



広域活性化拠点：品川駅・天王洲アイル駅周辺

隣接する港区にまたがる品川駅東口地区では、土地区画整理事業等による駅前広場や道路、公園等の都市基盤整備や、国際化・情報化に対応した業務を中心とした拠点整備が進められてきた。

また、天王洲アイル駅周辺においても、地区計画に基づく土地利用の基本方針や公共施設等の整備方針に沿った開発事業により、業務機能を中心とした個性豊かで魅力ある複合市街地の形成が図られてきた。

今後は、こうした開発地域の機能の連携と強化を目指すとともに、羽田空港の国際化やリニア中央新幹線計画を受け、国内外の来街者を迎え入れる品川駅の南の玄関口としての拠点を形成する。

そのために、水辺空間と一体となった魅力とうるおいある高質な業務機能の導入や、品川宿の歴史的資源等、地域特性を活かした商業・観光・宿泊・交流・文化等の機能の導入・強化を進め、品川駅南周辺への国際的な企業立地の誘導と、国内外からの多様な人々でにぎわう活気あふれる拠点の形成をめざす。

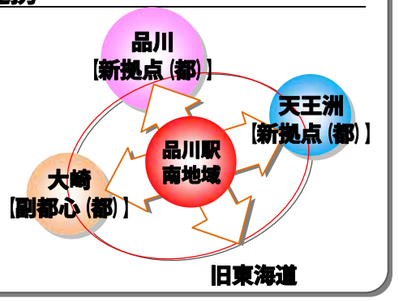
品川区まちづくりマスタープランより抜粋

2. 品川駅南地域の現況と課題

2－2. 地域のポテンシャル

ポテンシャル①　拠点地域（品川・大崎・天王洲）との連携

当地域は、東京の新拠点であり、今後更なるターミナル機能強化が計画されている「品川駅」に隣接しています。また、東京都・品川区の拠点地域として位置づけられ、産業育成を中心としたまちづくりが進められる「大崎駅周辺」や、国際化・情報化に対応したまちづくりが進められる「天王洲地区」とも隣接する位置にあり、周辺地域との連携により、品川区を先導する広域的な拠点地域の形成が期待される立地にあります。



ポテンシャル②　旧東海道品川宿として継承されてきた伝統や文化

東海道五十三次第一の宿場町である品川宿として、歴史ある寺社等が点在し、江戸時代当時の旧東海道の道路幅員が残されるなど、当時の名残を感じさせる地域です。

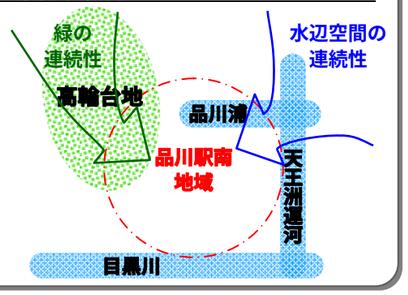
また、北の天王祭（品川神社）など、長年継承されてきた「祭り」では、様々な世代が担ぎ手となり活躍しています。

△ 祭りの風景

ポテンシャル③　御殿山の緑や目黒川・天王洲運河などの自然環境

武蔵野台地と東京湾の境界である高輪台地の南端に位置し、海岸部では段階的な埋立が進められてきました。

そのため、地域西側に御殿山・権現山、南側には目黒川、東側には品川浦や天王洲運河が位置し、山・川・海に囲まれ、まとまりある緑や水辺といった自然環境が残された都心でも希少な地域です。



ポテンシャル④　地域のまちづくりに積極的に取り組む人・組織

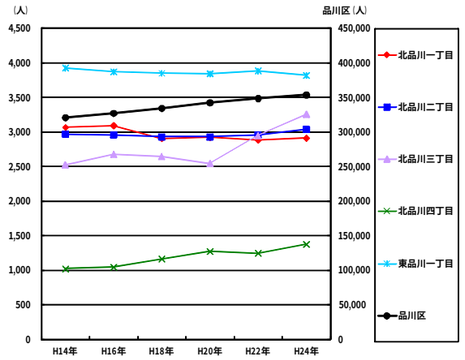
当地域には、まちづくりに関わる様々な団体があり、日々活動が進められています。

「旧東海道品川宿周辺まちづくり協議会」による旧東海道周辺の景観づくりや、「品川駅南地域の未来を創る推進協議会」による「品川駅南地域まちづくり構想」の作成など、地元提案によるまちづくりも積極的に進められています。

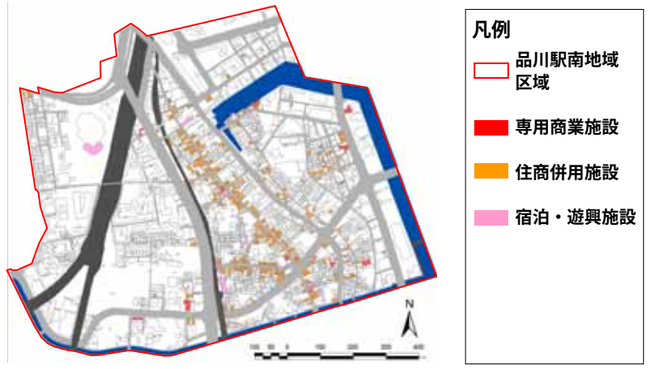
△ まちづくりの協議風景

2－3. 地域の課題

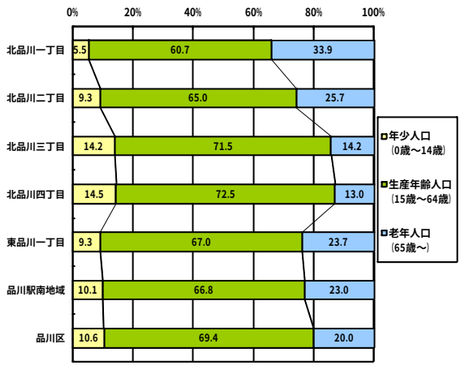
課題①　国内外との交通結節点である羽田空港・品川駅との連携強化と、国際化への対応
課題②　人口停滞・高齢化の進行・商店街の衰退傾向などへの対処による、地域活力の維持向上
課題③　東西連絡性の強化・改善と、都市計画道路を含む道路基盤の強化・再編
課題④　建物密集度の高い地域における居住者の生活環境の改善
課題⑤　大規模災害を想定した防災力の向上



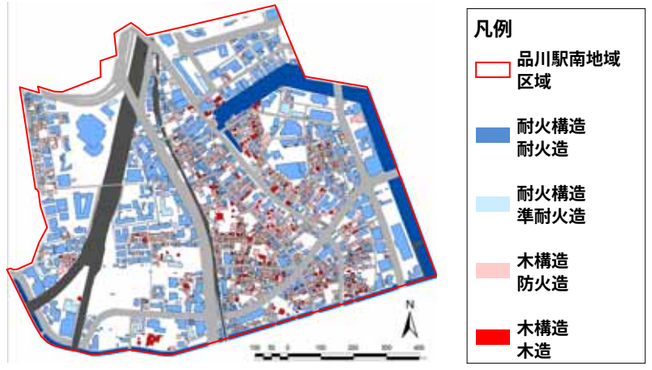
△町丁目別人口及び人口密度（各年 1 月 1 日現在）



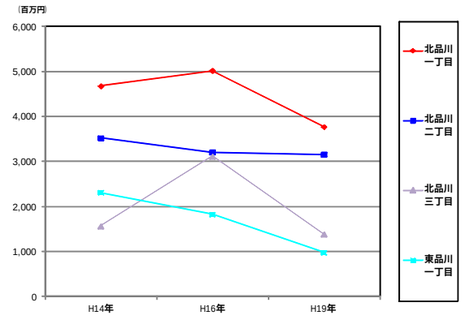
△ 商業関連施設の集積（平成 23 年度土地利用現況調査より作成）



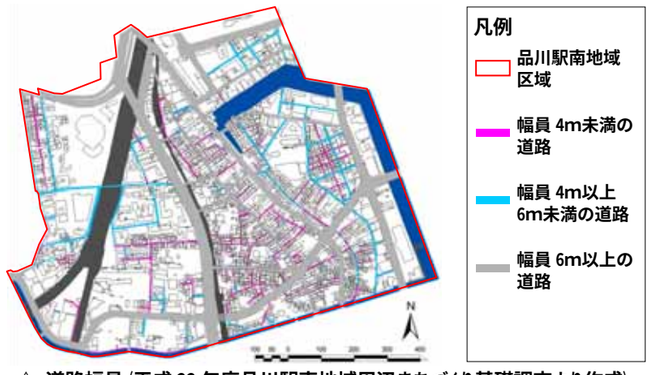
△年齢別人口（平成 24 年 1 月 1 日現在）



△ 建物構造（平成 23 年度土地利用現況調査より作成）



△近年の小売事業所年間商品販売額の変化



△ 道路幅員（平成 22 年度品川駅南地域周辺まちづくり基礎調査より作成）

3. 目標とする市街地将来像

3－1. 地域の将来像

品川の歴史・伝統と魅力ある水辺に出会う、拠点性と文化性を兼ね備えた国際交流都市
～多様な人々が訪れ、働き、楽しみ、憩い、暮らす　品川の南の玄関口～

3－2. 目標とする５つの街

1. 品川駅の南の玄関口として相応しい拠点性と賑わいを兼ね備えた街

羽田空港の国際化や品川駅のターミナル機能の強化を受け、品川駅へ国内外から訪れる来街者を迎え入れる南の玄関口（新たな品川宿）として、地域のグローバル化に対応した業務・商業・観光・宿泊・交流・居住など、多様な都市機能の導入・強化を図り、国際性豊かな多様な人々で賑わう街を目指します。

2. 旧東海道品川宿の伝統や文化と、新しく創り出されるものとが共存し合う、新旧が融合した街

歴史ある街の風情や伝統など、地域のローカルな資産をいかしたまちづくりをより一層推進すると共に、「古き良きもの」と「新しいもの」とが共存し、地域の魅力として相乗効果を生み出すような街並み・景観づくり等に取り組み、老若男女、様々な世代が訪れ、楽しめる街を目指します。

3. 多彩な表情を持った水辺に親しむ街

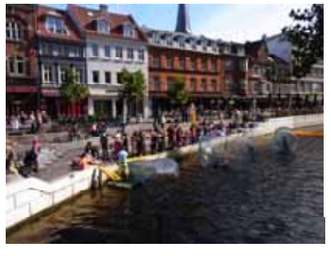
地域の３方向を水辺に囲まれる地域特性を生かし、各水辺の特徴に応じた機能強化を図りながら「賑わい」や「憩い」、「交流」といった様々な表情を創出し、水辺の魅力を高めていきます。併せて、水辺へのアクセス強化や歩行者ネットワークの拡充を図り、暮らしの中で水辺がより身近な存在として感じられる街を目指します。

4. 子どもからお年寄りまで、誰もが安心して快適に暮らし続けられる街

御殿山・権現山等の住宅地では良好な生活環境が確保されている一方で、品川宿や猟師町では建物密集度が高く、細街路も多いため、生活上・防災上課題となる地域が残されています。これらの課題解決に取り組み、生活環境や防災機能の向上を図ることで、居住者が安心して快適に暮らし続けられる街を目指します。

5. 多様な主体の参画・協働により、持続的に発展する街

大きな街づくりを達成する上では、行政・民間企業・商店主・地元住民など多様な主体の参画が必要であり、それらが協働することで新たな付加価値を創出できます。そのため、より良いまちづくりを進めるための推進体制の構築を図ると共に、地域のエリアマネジメントを見据えた体制づくりに取り組み、地域の価値が維持・発展する街を目指します。



3－3．将来像の実現に向けた基本戦略

- 目標とする市街地将来像の実現に向け、以下の７つの基本戦略に基づき、まちづくりを展開していきます。

基本戦略１　国内外からの来街者を迎え入れる新たな拠点づくり

- 広域的なターミナル機能強化により、今後の飛躍的な発展が見込まれる品川駅に近接するエリアについては、「重点検討区域」として位置づけ、地元のまちづくり機運の高まりにあわせて、土地利用の誘導や、それと併せた都市基盤整備等に取り組み、『多様な人々が訪れ、働き、楽しみ、憩い、暮らす　品川の南の玄関口』として、人々を地域に迎え入れるにふさわしい新たな拠点づくりに取り組みます。
- 拠点づくりの中で、旧東海道宿場町の伝統・文化や、屋形舟の並ぶ風情ある景観等など、この場所にしかない地域固有の魅力を更に高めていき、品川駅周辺エリア全体の魅力向上を図ります。

基本戦略２　地域特性をいかした賑わいと回遊性づくり

- 旧東海道・北馬場参道通りに位置する「北品川本通り商店会」「北品川商店街」「新馬場商店街」の３商店街の活性化や、船宿をはじめとする水辺に関わる関係者との連携による新たな魅力づくりなど、ハード・ソフトの両面で取り組み、地域の賑わいを高めます。
- 旧来からの街道筋を残す旧東海道をはじめ、「品川浦」、「天王洲運河」、「目黒川」といった貴重な水辺資源をいかし、水際の歩行者動線整備など、人々が歩き・楽しめる環境整備に取り組むことで、地域全体の回遊性を高め、地域の活性化に取り組みます。

基本戦略３　多様な世帯の都心居住を推進する住まいづくり

- 水辺や台地などの自然地形、市街地ごとに刻まれてきた歴史性、交通や日常の買物等の利便性をいかしながら、多様な国籍･人種、多様な世代が快適に暮らすことのできる環境の形成を図ります。
- 世界的な人材の招聘に資する高級住宅から、若い学生やファミリー層も入居できる手頃な物件まで、幅広い暮らし・住まいが提供されるような誘導への取り組みを行い、地域の交流をさらに活気あるものへと高めていきます。

基本戦略４　生活環境を高める基盤（道路・公園・緑地・水辺等）づくり

- 品川駅に近接する北品川駅周辺については、交通結節点としてのポテンシャル高まる品川駅との更なる連携強化や、東西連絡性の強化・改善に向け、品川第一（八ツ山橋）踏切の解消をはじめ、品川駅の南の玄関口として相応しい都市基盤のあり方について検討を進めます。
- 御殿山の緑や目黒川・天王洲運河などといった豊かな自然環境を大切にすると共に、地域全体の生活環境を豊かにする公園や緑地、水辺の環境整備について、まちづくりに関わる多様な主体と協働しながら積極的に進めていきます。

基本戦略５　誰もが安心して生活できる環境（ﾊﾞﾘｱﾌﾘｰ、ﾕﾆﾊﾞｰｻﾙﾃﾞｻﾞｲﾝ等）づくり

- 「品川区すべての人にやさしいまちづくり推進計画」に基づき、すべての人が便利かつ安全に移動できるよう、道路空間や交通施設等のバリアフリー化を推進します。
- 高齢者、障害者、子ども・子ども連れ、妊婦、外国人なども含めて、すべての人にとって暮らしやすいまちを形成するため、はじめから障壁をつくらないユニバーサルデザインの考え方に基づくまちづくりを進めます。
- 公共施設の改修等においては、ユニバーサルデザイン化の推進を図ります。

基本戦略６　災害に強い安全・安心なまちづくり

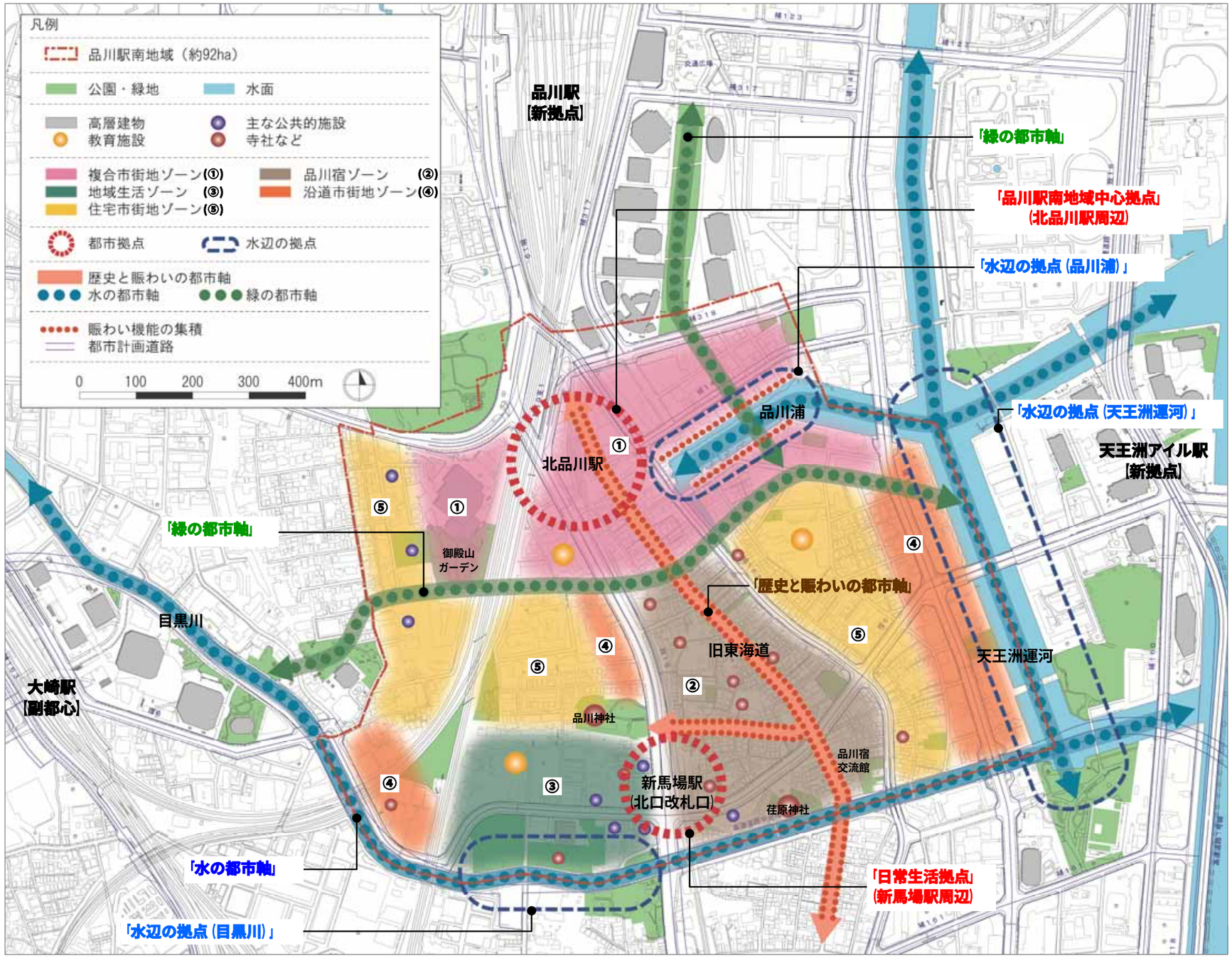
- 地域全体の防災機能の向上に取り組むと共に、地元関係者と協力しながら、地域に関わる様々な方々の防災・減災への意識向上を図ります。
- 旧東海道周辺や猟師町などの歴史的な市街地では、細街路や建物密集度の高い市街地が見られるため、まちの骨格や道筋といった地域資源に配慮しながら、防災機能の向上を図ります。
- 天王洲運河や目黒川といった水辺に近接する地域については、高潮・津波対策をはじめ、浸水被害の防止等について、ハード面・ソフト面の両方から早急に対応を進めていきます。

基本戦略７　まちづくりを推進する体制づくり

- 「品川駅南地域　まちづくりビジョン」に基づき、様々な主体によるまちづくりを適切に進行管理していくため、既存のまちづくりに係わる組織や団体等と連携しながら、計画の立案段階から管理・運営面までを見据えた、官民協働によるまちづくりの体制構築に取り組み、地域価値の維持・発展を目指します。
- エリアマネジメントなど、まちづくりに継続的に取り組むための仕組みづくりについても検討します。

3－4．市街地将来像

- 目標とする市街地将来像の実現に向けた、地域全体の将来像を以下の通り示します。
- 品川駅周辺の今後のまちづくりの展開や、都市基盤の整備状況、地域内に存在するまちづくりの資源や地域特性等を考慮しながら、適切な土地利用を誘導するとともに、地域の骨格となる「拠点」や「軸」の形成を図り、目標とする市街地将来像の実現に取り組みます。



■ 品川駅南地域における主な地域資源

△ 品川神社

△ 荏原神社

△ 品川浦

△ 天王洲運河

△ 旧東海道

△ 品川宿交流館

△ 御殿山ガーデン

△ 目黒川

3. 目標とする市街地将来像

■ 拠点の考え方

- 拠点に関しては、北品川駅周辺と新馬場駅（北口改札）周辺の２ヶ所を「都市拠点」として指定し、地域の核となる中心的な市街地としての拠点性を高めていきます。
- 当地域の資源である品川浦・天王洲運河・目黒川については、「水辺の拠点」として位置づけ、それぞれの地域特性に合わせた魅力ある水辺空間の創出に取り組みます。

△ 品川浦の風情
（水辺の拠点（品川浦））

△ 区立子供の森公園
（水辺の拠点（目黒川））

△ 運河ルネッサンス活用例
WATER LINE（水上レストラン）

△ 親水空間の整備例
五反田ふれあい水辺広場

【都市拠点】

「品川駅南地域中心拠点」（北品川駅周辺）

- 東京都や港区等関係機関と緊密に協議、連携しながら、土地の有効利用について検討を進め、道路網の再編、踏切解消を含めた北品川駅周辺のまちづくりに取り組みます。
- 品川駅周辺地域の国際化を見据え、多様な都市機能の集積を図ると共に、旧東海道の歴史や水辺・緑といった豊かな都市環境が調和する複合市街地の形成を図ります。

「日常生活拠点」（新馬場駅周辺）

- 品川学園や品川第一地域センター、品川図書館、区立子供の森公園など、駅周辺に公共施設が集積する暮らしの中心的な市街地として、地域の日常生活を支える生活利便性の高い拠点地区の形成を図ります。

【水辺の拠点】

「水辺の拠点（品川浦）」

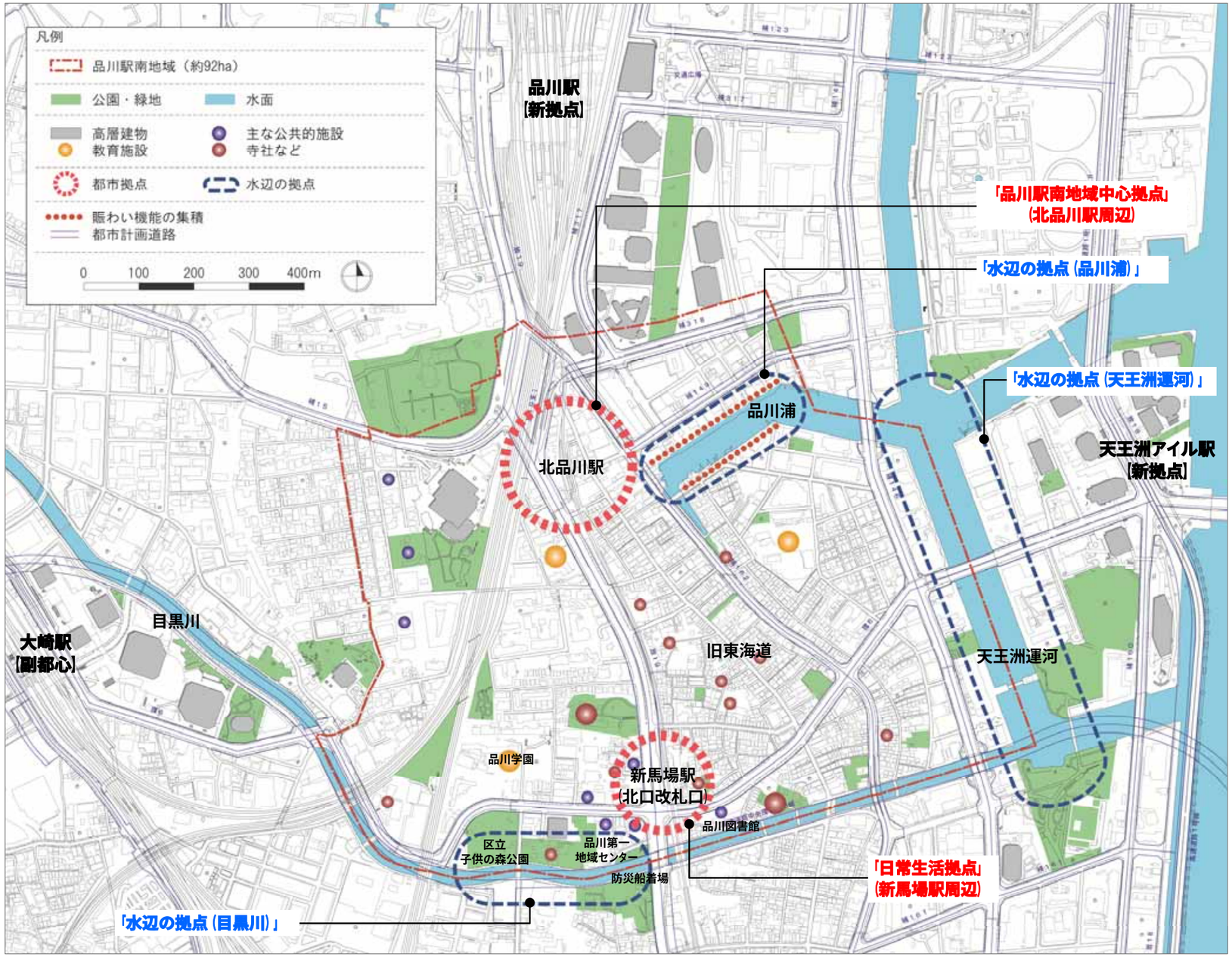
- 舟だまりの風情をいかしながら、水辺の商業・観光・交流機能強化や防災機能強化、品川駅との近接性をいかした水陸の交通結節点の強化に取り組み、国内外の多様な人々で賑わう水辺空間を形成を図ります。

「水辺の拠点（天王洲運河）」

- 運河ルネッサンスによる水面利用の規制緩和等を活用しながら、民間の創意工夫を基本に、新たな水辺の魅力づくりに取り組みます。

「水辺の拠点（目黒川）」

- 目黒川に面する公園施設等を活用しながら、多様な世代や地域コミュニティの交流・憩いの拠点となる、緑豊かな親水空間の形成を図ります。
- 既存の防災船着場を積極的に活用し、地域全体の防災力強化に取り組みます。



3. 目標とする市街地将来像

■ 軸の考え方

- 都市拠点・水辺の拠点や、旧東海道、品川浦・天王洲運河・目黒川の水辺、御殿山の緑といった多様な地域資源を緩やかに結び、地域全体の回遊性を高める「都市軸」の形成を図ります。
- 具体的には、「歴史と賑わいの都市軸」、「水の都市軸」、「緑の都市軸」の３つの都市軸の形成を図ります。

△修景が進められる旧東海道
〔歴史と賑わいの都市軸〕

△品川橋
〔歴史と賑わいの都市軸〕

△ 緑豊かな目黒川の沿川
〔水の都市軸〕

△ 天王洲運河沿いの遊歩道
〔水の都市軸〕

【都市軸】

「歴史と賑わいの都市軸」（旧東海道、北馬場参道通り）

- 旧東海道や北馬場参道通りについては、品川区景観計画の重点地区として、地元組織によるまちづくり活動との協働のもと、石畳舗装や街路灯整備等の修景整備が進められ、旧東海道の街並みを今にいかす景観づくりが進められています。
- 既存商店街の集積を活かし、商店街の活性化に取り組むと共に、継承されてきた伝統や歴史・文化を伝える「古きよきもの」と、今後新たに創出される「新しいもの」とが共存・調和する街並み形成を誘導し、居住者だけでなく、国内外の来街者による賑わいを創出するまちづくりに取り組みます。

「水の都市軸」

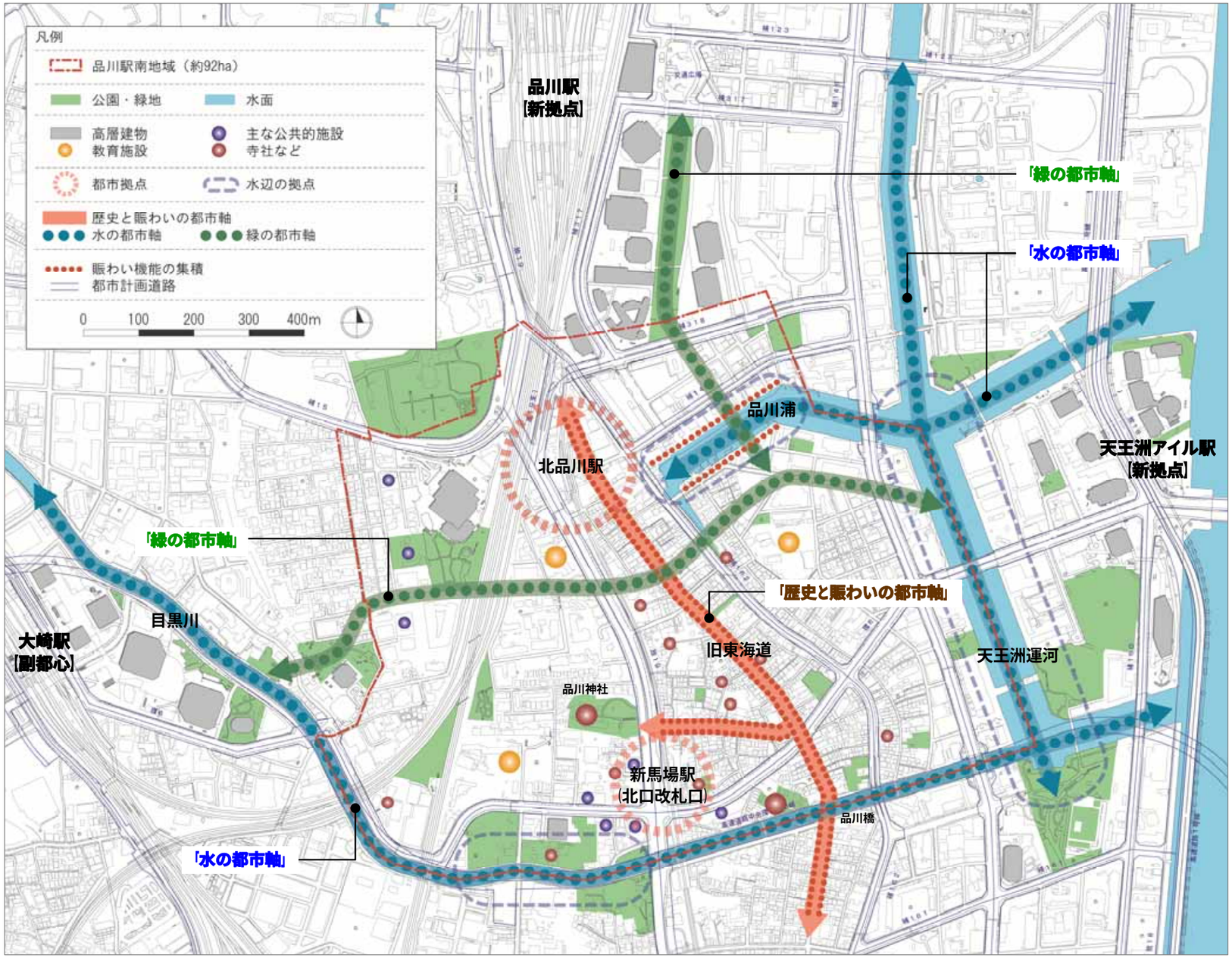
- 品川浦・天王洲運河・目黒川の「水辺の拠点」や、水辺に点在する寺社や公園・緑地といった地域資源をゆるやかに繋ぐため、運河沿いの遊歩道の整備や、目黒川沿いの環境整備等に取り組み、地域の回遊性の向上を図ります。

「緑の都市軸」

- 南北方向の緑の都市軸については、今後のまちづくりの展開に併せて、品川駅東口の公園やデッキネットワークの延伸を誘導し、新たな水と緑のネットワークの形成に取り組みます。
- 東西方向の緑の都市軸については、既存の公園・緑地等をいかしながら、沿道の建物更新等の機会を捉えた緑化の誘導や、既存建物の窓辺の花・鉢植え等による緑空間を創出し、東西方向の連携強化に資する新たな緑のネットワークの形成に取り組みます。

△緑の都市軸の整備例
品川セントラルガーデン

△緑の都市軸の整備例
城山ガーデン



3. 目標とする市街地将来像

■ 土地利用・ゾーニングの考え方

- 広域的な交通結節点としての機能強化が進められる品川駅に近接する地域については、業務・商業・観光・宿泊・交流・居住機能など地域の国際性を高める多様な都市機能が集積する複合市街地の形成を図ります。
- 周辺地域については、旧東海道を中心とする「品川宿ゾーン」や目黒川沿いの「地域生活ゾーン」など、地域特性を踏まえた土地利用を誘導します。
- 地域全体としては、業務・商業・居住等の都市機能をバランスよく配置し、「多様な人々が訪れ、働き、楽しみ、憩い、暮らす街」の実現を図ります。

△多様な都市機能が集積する
御殿山ガーデン（複合市街地ゾーン）

△緑豊かな御殿山の住宅地
（住宅市街地ゾーン）

複合市街地ゾーン（①）

［誘導機能］業務・商業・観光・宿泊・交流・居住機能

品川駅周辺のグローバル化の進展の中で、品川駅東口の国際業務機能の強化・拡充や、国内外からの来街者を想定した多様な都市機能を導入し、特に旧東海道沿いについては、沿道の一体的な街並み形成に取り組みながら、複合市街地の形成を図ります。

品川宿ゾーン（②）

［誘導機能］商業・観光・文化・宿泊・交流・居住機能

旧東海道品川宿の継承されてきた歴史や文化を伝え、賑わいを創出する街並み形成に取り組みながら、老若男女が訪れ楽しめる複合市街地の形成を図ります。

地域生活ゾーン（③）

［誘導機能］教育・医療・福祉・交流・居住機能

公共施設の建替え・改修等に併せた機能強化に取り組み、住民の快適な生活を支える複合市街地の形成を図ります。

沿道市街地ゾーン（④）

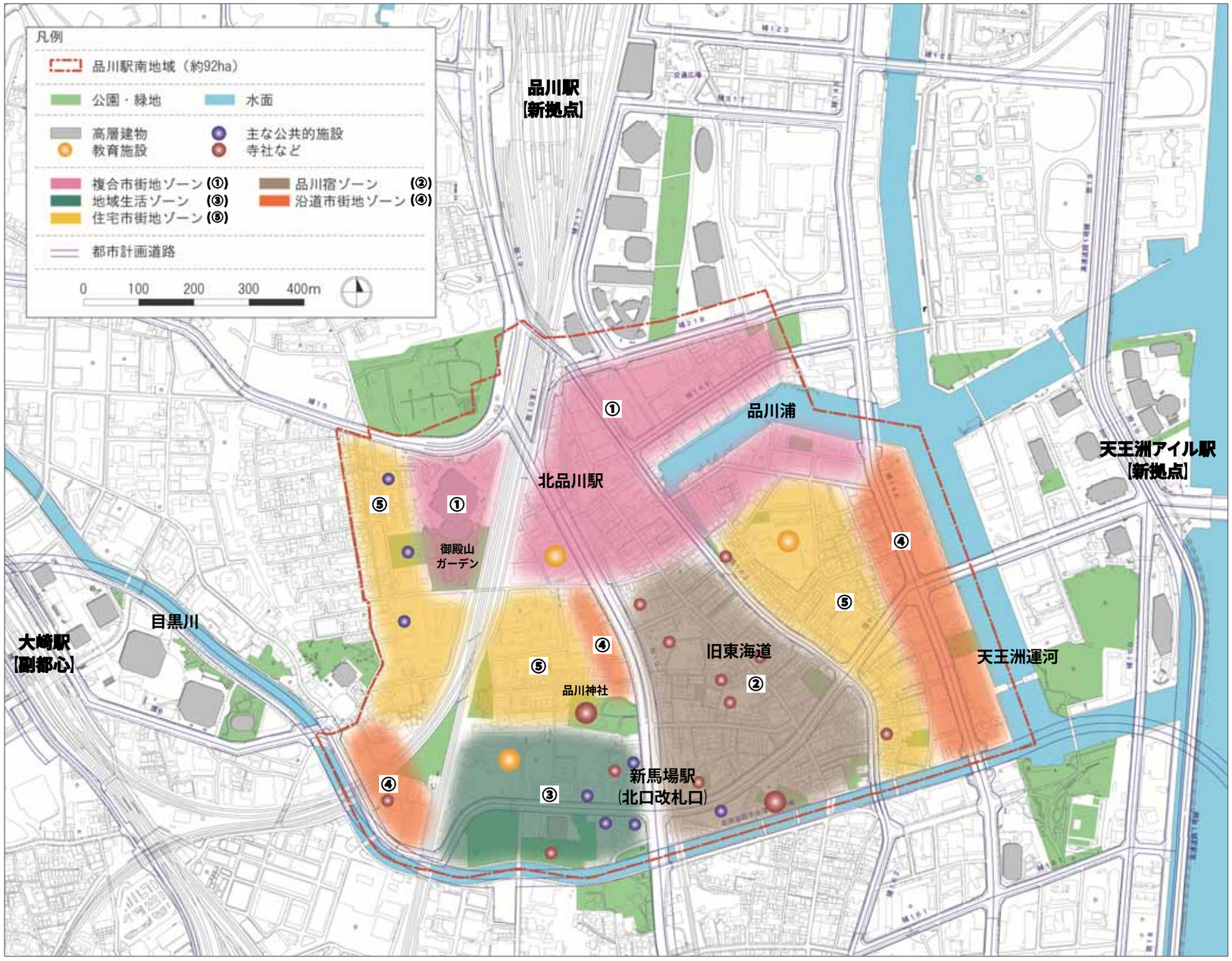
［誘導機能］業務・商業・居住機能

周辺市街地との調和を図りながら、土地の共同化・高度利用を推進し、幹線道路沿道として相応しい複合市街地の形成を図ります。

住宅市街地ゾーン（⑤）

［誘導機能］居住機能

御殿山や猟師町の地域特性を踏まえながら、建物の適切な建替え・更新を進め、戸建住宅や共同住宅が立ち並ぶ閑静な住宅市街地の形成を図ります。



3. 目標とする市街地将来像

■ 重点検討区域における市街地将来像

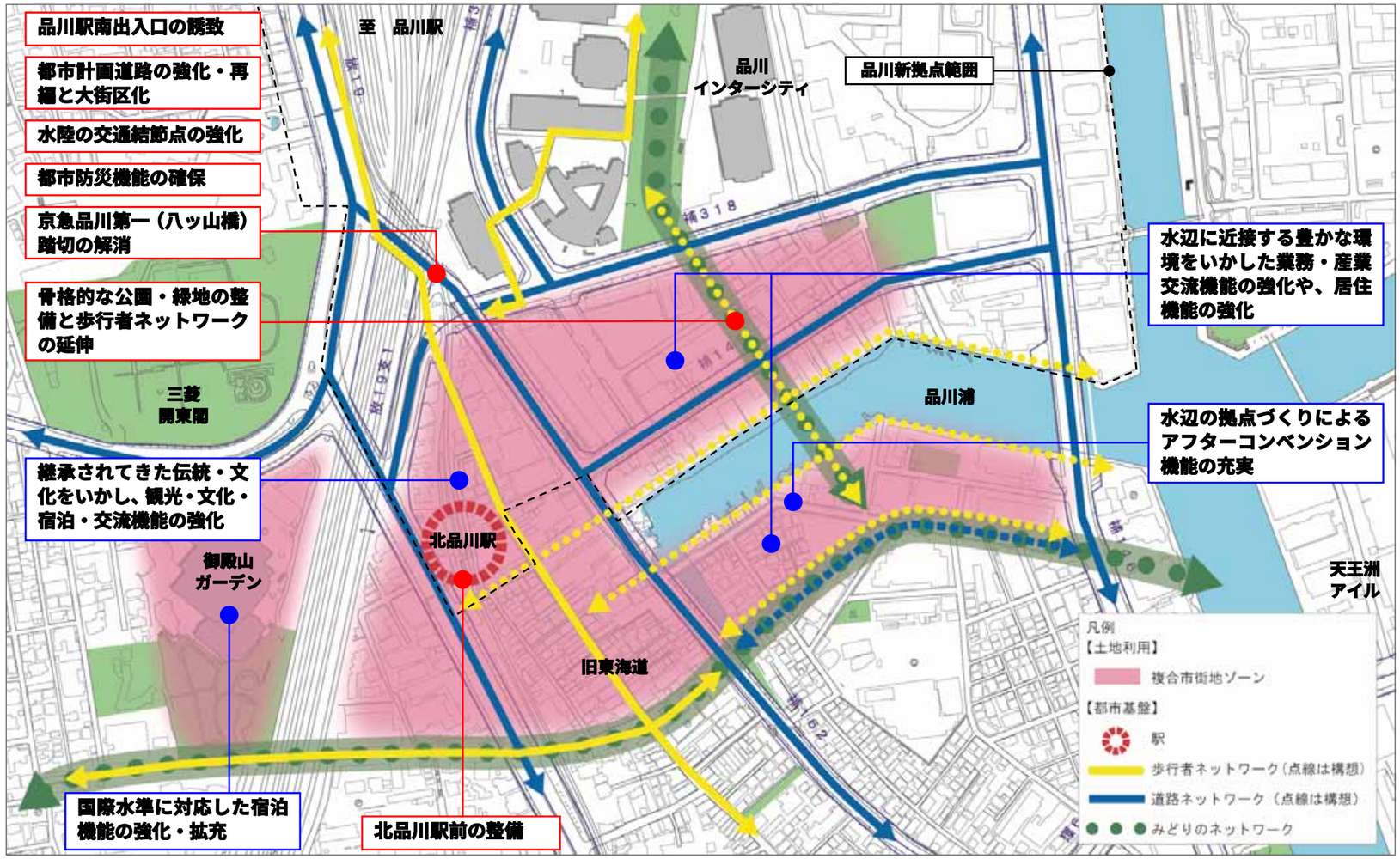
- 重点検討区域については、品川駅のターミナル機能強化に伴う開発ポテンシャルの高まりや、羽田空港の国際化の動きを受け、積極的な機能更新・再編を誘導すると共に、旧東海道の宿場町としての伝統や屋形舟の並ぶ風情ある景観等を保ちながら、品川駅の南の玄関口として多様な人々を地域に迎え入れるにふさわしい、拠点性と賑わいを兼ね備えたまちの形成に取り組みます。
- また、まちづくりの中で、天王洲地区における外資系企業等との交流促進や、大崎駅周辺のものづくり企業等との交流促進を図り、品川―天王洲―大崎の連携強化を高める新たな複合市街地の形成を図ります。

【まちづくりの考え方】

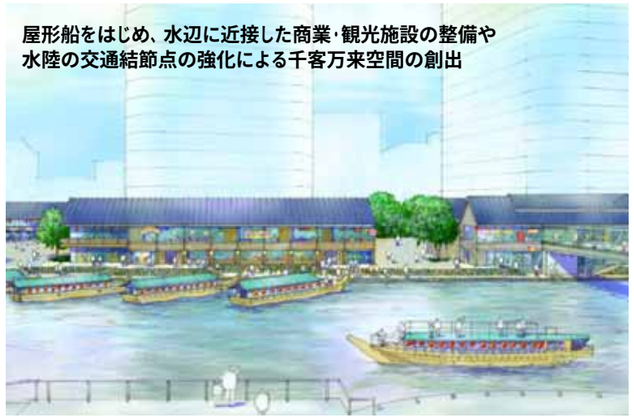
- 地元のまちづくりに向けた機運の高まりにあわせて、業務機能をはじめ、品川浦や旧東海道の歴史・文化をいかした、商業・観光・宿泊・交流・居住等の都市機能の導入を進めます。
- 品川浦では、後背地のまちづくりと併せて、未整備の耐震護岸（内部護岸）整備や水域利用の再編を進め、水辺の商業・観光機能強化を図ります。
- 各国大使館や御殿山ガーデンが位置する御殿山のエリアについては、既存の宿泊機能をいかしながら、地域の国際化に資する土地利用を展開していきます。

【空間形成のイメージ】

- 品川浦周辺では、品川駅東口の公園やデッキネットワークの延伸等により、品川浦の水辺や旧東海道に繋がる水と緑のネットワークや歩行者ネットワークの形成を図ります。
- 都市計画道路の整備、京急品川第一（八ツ山橋）踏切の解消、北品川駅前整備など、円滑な都市活動を支える都市基盤の強化を図るとともに、今後の土地利用に相応しい街区の再編について検討を進めます。
- 旧東海道沿道については、新・旧が融合する良質な景観形成を図り、旧東海道への玄関口としてふさわしい環境整備を進めます。



将来イメージ①　品川の伝統や歴史を体感できる旧東海道品川宿



将来イメージ②　品川の水辺の新たな顔となる品川浦の賑わい拠点

将来イメージ③　品川の環境モデル都市を象徴する水と緑の骨格軸